

資料3

# 始良市複合新庁舎建設 基本構想・基本計画

## 諮問にあたって

－ これからのまちの将来像を見据えて －

平成29年5月26日  
始良市長 笹山 義弘

### 本日、お話をさせていただく内容

- 1 始良市を取り巻く背景
- 2 始良市が目指すべき姿
- 3 多極ネットワーク型コンパクトシティとは
- 4 始良市のコンパクトシティのイメージ
- 5 拠点施設のあるべき姿
- 6 現庁舎が拠点施設となりうるか
- 7 複合新庁舎の整備の位置づけ
- 8 20年後、30年後の始良市の姿

## 始良市を取り巻く背景

### 【全国の地方都市のこれから】

- 今後、本格的な人口減少や高齢社会が到来します
- 拡大した市街地のままでは、医療・福祉サービス等の提供や地域の活力維持が十分にできなくなります。
- 魅力を喪失した地域から更なる人口流出するという悪循環が発生する可能性があります。

始良市においても、全国の地方都市同様、2025年頃から人口減少に転じる（始良市人口ビジョン）と予想されています。

今から20年後、30年後の将来を見据えた持続可能なコンパクトなまちづくりを実現するために複合新庁舎の整備を検討していきます。

## 始良市が目指すべき姿

コンパクトなまちづくり

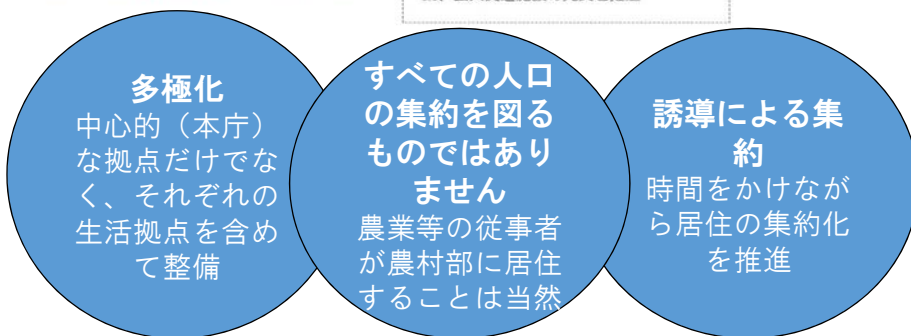
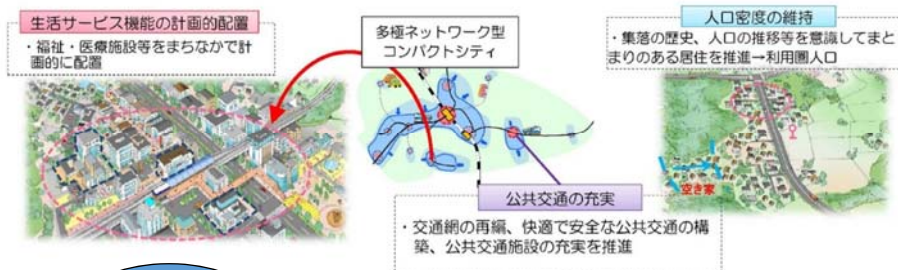
||

多極ネットワーク型コンパクトシティ

### 多極ネットワーク型コンパクトシティ

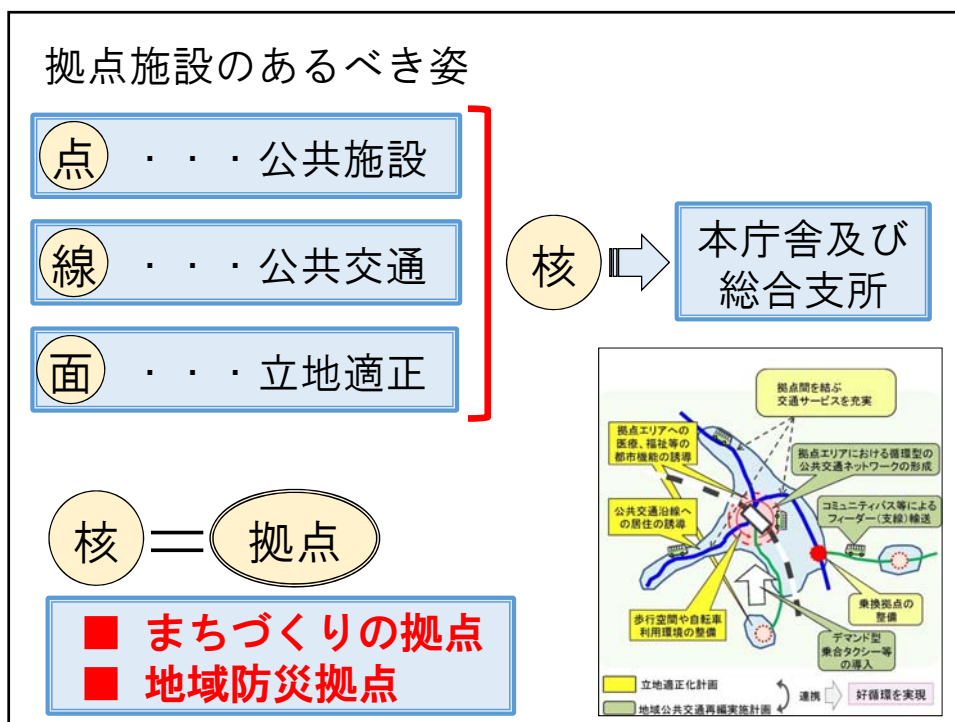
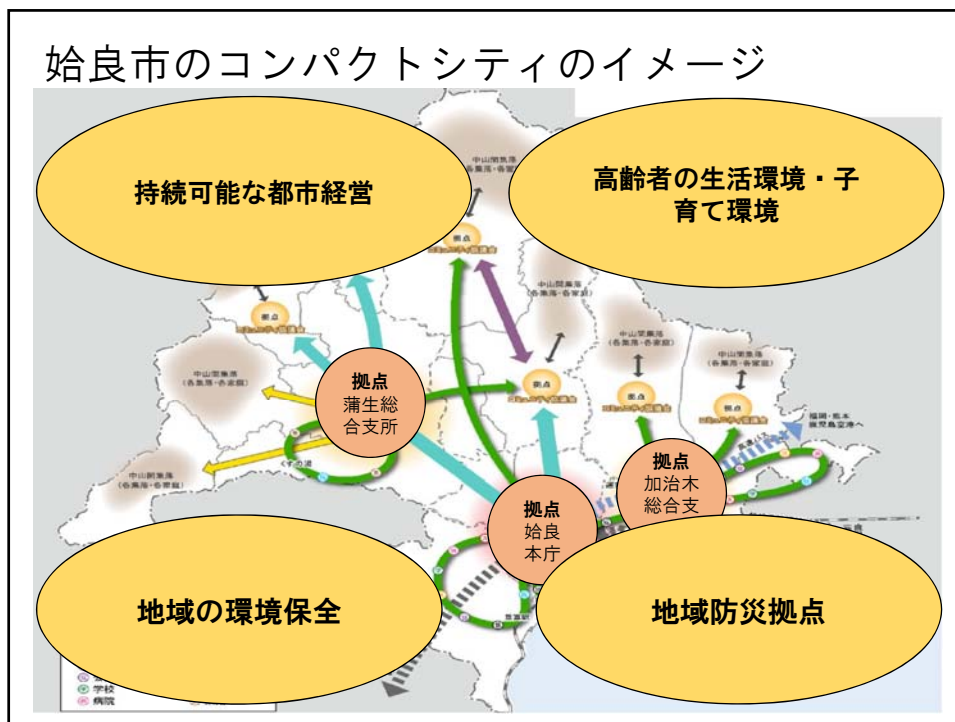
- 医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地
- 公共交通によりそれらの施設にアクセス
- サービスが住まいなどの身近に存在

## 多極ネットワーク型コンパクトシティとは



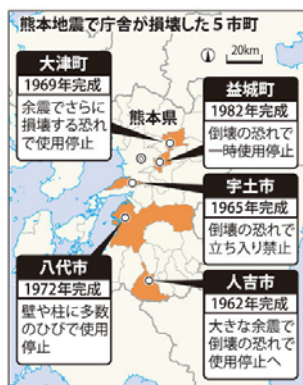
## 始良市のコンパクトシティのイメージ





## 現庁舎が拠点施設となりうるか

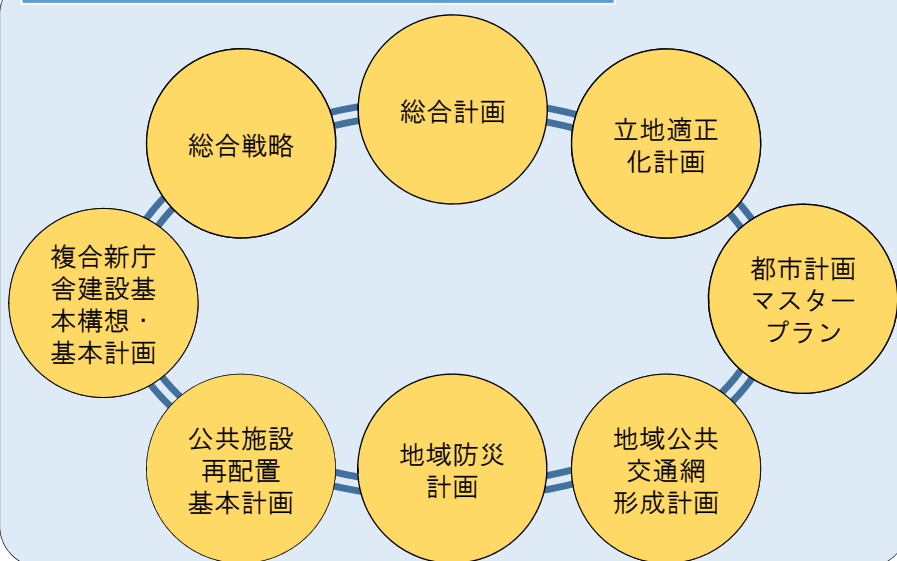
損壊した5自治体の庁舎のうち、4庁舎が1962年～1969年年代の建設で、いずれも旧耐震基準の建物でした。



拠点施設となるべき始良庁舎本館、加治木庁舎北・南庁舎、蒲生庁舎本館が旧耐震基準で建築された建物です。

## 複合新庁舎の整備の位置づけ

多極ネットワーク型コンパクトシティ



## 20年後、30年後の始良市の姿

- 多世代がスムーズに世代交代していくことができる持続可能なコンパクトなまち
- 人口減少時代を迎えても、なお元気なまち

複合新庁舎の整備は今も、そして将来もくらしやすいまちであるための政策の一つです。20年後、30年後の始良市の姿を思い描きながら、県内一くらしやすいまちづくりを市民の皆さんと一緒に考えていきます。